



幼児期は、小学校以降の教育、つまり、その子の生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期です

宗像市では、総合的な幼児教育の指針として「宗像市幼児教育振興プログラム」を策定し、小学校に入学するまでに育てたい幼児像を「自分・ひと・環境とのかかわりを大切にする子ども」としています。この幼児像の実現に向けては、保育所・幼稚園・認定こども園、家庭、地域がそれぞれの立場で子どもを育てることが大切であることから、3つの共通目標を設定しています。また、幼児教育と小学校教育との連携・接続の強化を基本施策の1つとして幼児教育の充実を図ろうとしています。

平成25年度には、子どもの様子や保育者の子どもとのかかわり方、言葉かけの仕方などを見学して、指導や対応の違いを知り、意見交換をすることで互いの交流を深めることを目的に、保育士・教員を対象とした保育参観がスタートしました。その中で、「子どもたちをどこまで育てればいいのか分からない」「宗像市の子どもを小学校入学までにここまで育てましょうというめざす子どもの姿があれば…」という意見や感想が多く出ました。

そこで、平成26年度に、宗像市の子どもたちを小学校入学までにここまで育て、小学校に入学してからはこう育てようという保育士・教員向けの「学びのめやす」を作成するワーキング会議を立ち上げました。構成メンバーは、市内の保育所・幼稚園からそれぞれ2名ずつの先生と小学校から4名の先生、さらに教育委員会の指導主事、社会教育主事を含めた10名です。

ワーキング会議を進める中で、それぞれが子どもたちのために精一杯頑張っているにも関わらず、お互いに知らないことや共通理解されていないことなど多くの課題があり、お互いの教育を理解して、子どもを育てていくことがいかに大事かを再認識しました。

保育所・幼稚園・認定こども園で、幼児は遊びや生活を通じて、情緒の発達・運動能力の発達・知的な発達・社会性などたくさんを吸収し成長していきます。体を使って遊び、体験し、考えることで豊かな感性を育てるとともに、学習の基本になる好奇心・探究心・やる気も育ちます。また、小学校以降の学習を深く理解することにつながり、基本的な生活習慣や態度、運動能力、積極性や自主性などを身に付けます。この時期は、小学校へつなぐだけでなく、生涯の人間形成の土台を培う重要な時期です。

保育所・幼稚園・認定こども園では、目の前の成果だけでなく小学校以降で大きく伸びるものになる力を育てているという自信と誇りを持って、日々の保育や教育活動に取り組んでいきましょう。

小学校では、幼児期と児童期の教育の関係を1つのつながりとしてとらえ、ゼロから教育するのではなく、幼児教育の成果をしっかりと引き継ぎ、子どもたちの「生活」や「発達や学び」の連続性を意識した教育活動を行っていきましょう。

この冊子が、宗像市の子どもたち一人ひとりの豊かな成長に資するため、接続期にどこまで力をつけるか、私たち保育士や教員の道しるべになることを心から願っています。

宗像市「学びのめやす」ワーキング会議 一同

◎このパンフレットに関すること
子ども育成課 TEL 36-3181

◎子どもやその家庭に関すること
こども家庭相談室 TEL 36-1302
子どもの権利相談室 TEL 36-9094

◎発達支援に関すること
発達支援室 TEL 36-9098



宗像市は「子育て世代に選ばれるまち」を目指します

ロゴマークは「宗」をモチーフに子どもの笑顔を表現し、青と緑で豊かな自然を、ピンクで人々のあたたかさを表しています。キャッチコピーには、まちの魅力をみんなで創造・発信し、知れば知るほど「むむっ! すごい!」と思ってもらえるまちにしたい。そんな想いを込めています。



保幼小接続期における学びのめやす

幼児期は、心情、意欲、基本的な生活習慣等、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。幼児は、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して、情緒的・知的な発達、そして社会性の基礎を培っていきます。

こうした幼児期の教育にあたっては、幼児の内面に働きかけ、一人ひとりの持つ良さや可能性を見だし、その芽を伸ばすことが大切です。また、充実した幼児期の生活が、児童期への発達の流れをつくり、さらにはその後の人間としての生き方を大きく左右していきます。

今回、宗像市では、発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図り、幼児がスムーズに小学校に入学できるように、さらには心・体・学びの土台を築けるように、特に保幼小接続期（年長児～小学1年生）を中心に「宗像の子どもたちをここまで育てよう」という「学びのめやす」を作成しました。



つなげよう!
子どもたちの
育ちと学びを

宗像市教育委員会
(教育子ども部子ども育成課)

平成 29 年 3 月 31 日「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改訂告示されました。

新しい時代に必要となる資質・能力の 3 つの柱があります。この資質・能力を具体的な目標として定めたのが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」です。今回、その分をパンフレットに加え、一部改定しました。

保育所・幼稚園・
認定こども園では、

- ◎ 就学前までにここまで育てるというめやすとして
- ◎ 子どもたち一人ひとりの育ちの姿を確認するため
- ◎ 保育士・教員自身が自らの幼児理解や援助の仕方を振り返るため

小学校では、

- ◎ 保育所・幼稚園で育んできた内容を理解し、その成果をしっかり引き継いで、子どもたちに声掛けや指導をしているか、教員自身が自ら振り返るため
- ◎ 子どもたち一人ひとりのできていること、できていないことを把握するため
- ◎ できていることはさらに定着をめざし、できていないことは、保育所・幼稚園・認定こども園や家庭と連携して重点的に指導するため

◎このパンフレットの見方

共通目標 1

自分を大切にし、友だちを大切にすることを育てる

自分を大切にし、友だちを大切にすることを育てるためには、自尊感情を高めることが大切です。高い自尊感情を身につければ、物事に対して積極的に取り組む、自分なりの考えや意見をもち、自信を持って行動することができるようになります。例えば、「自分は、褒められたいから頑張る」と思っている子どもには、「あなたのよさは、よく考えて事に取組むことだよ」などと伝え、自分のよさを認めることが大切です。また、役割を与え、やり遂げる体験を繰り返す中で「自分は役に立っている」「認められている」と実感させることが大切です。

保育所・幼稚園・認定こども園では



小学校では

幼児教育での成果を受け、自他の尊重や自然や社会とのかかわりに関することなど、小学校の教育活動全体を通じて、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度などを養っていきます。

宗像市幼児教育振興プログラムで目指す共通目標です。
共通目標は3つあり、2～4ページにそれぞれ示しています。

各共通目標を達成するために、大切なことや具体的に
どのように子どもに接していけばよいかを説明しています。

保育所・幼稚園において、幼児を「ここまで育てよう」というめやすを示しています。保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容に基づいて作成しています。

子どもたちの成長や発達には、個人差が当然ありますので、この内容をめやすにして子どもたちに必要な援助をしたり、認めたりしながら育んでください。

保育所・幼稚園・認定こども園での保育・幼児教育の成果を受け、小学校では、どんなふうにも心や体、学びを育んでいくかを示しています。

宗像市幼児教育振興プログラム

【育てたい幼児像】「自分・ひと・環境とのかかわりを大切にする子ども」

共通目標Ⅲ
基本的な生活習慣を身に付け、丈夫な体を育てる

共通目標Ⅱ
話を聞く力・言葉で伝える力・人やものとかかわる力を育てる

共通目標Ⅰ
自分を大切にし、友だちを大切にすることを育てる

健康

・いろいろな運動遊びに親しみ、喜んで運動する。
・遊びや生活の基礎となる体力や運動能力が身についている。
・健康な生活のリズムが身についている。
・食事は決まった時間内に食べることができる。
・清潔な衣服の着脱、食事、排泄など生活習慣が身についている。

表現

・生活の中で様々な音、色、形、動きなどに興味を持っている。
・感動したことを先生や友達と伝えあう。
・道具や用具の使い方が身についている。
・音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりすることを楽しむ。
・描いたり、つくったりすることを楽しむ。

言葉

・先生や友達の話に興味を持ち、親しみをもち、聞いて話したりする。
・要求や経験などを相手にわかるように言葉で表現する。
・先生や友達の話を聞くときは、集中して聞く。
・絵本や物語に親しみ、興味を持って聞く。
・親しみをもち、日常のあいさつをする。

環境

・数量や図形などに興味を持っている。
・文字に対する興味を持っている。
・わからないことは、考えたり、尋ねたり、調べたりしようとする。
・自然の持つ不思議さ、面白さ、美しさなどに気づく。
・身近な動植物に親しみ、命の大切さに気づいて、いたわったり、大切にしたりする。

人間関係

・友達の良さに気づき、一緒に活動することを楽しむ。
・自分の思いを相手に伝え、相手の思いに気づく。
・決まりや約束の大切さに気づき、守る。
・良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。
・共同の遊びや用具を大切にしみ、みんなで使う。

総合

・いろいろな活動に意欲的に取り組む。
・したいこと、欲しいものがあることも、状況を考え、我慢する。
・自分自身や自分のすること、自信と責任を持つ。
・自分でできることは自分でやる。
・遊びを楽しむながら様々なことに挑戦し、最後までやり遂げようとする。

宗像市保育所児童保育要領・幼稚園幼児指導要領・認定こども園こども要領

着脱

・手洗い・トイレ
・物の管理

給食・弁当

・姿勢
・外遊び

外遊び

・楽しむ

つかう

・かかわる

あいさつ

・話を聞く

伝える

・いのち

正直・素直

・友だち

自立

・律する心

自主・自律

・責任感

公共心・公德心

・思いやり・協力

勤労・奉仕

・生命尊重・自然愛護

公正・公平

・健康・体力向上

基本的な生活習慣

・創意工夫

基本的な生活習慣

・自主・自律

公共心・公德心

・思いやり・協力

勤労・奉仕

・生命尊重・自然愛護

公正・公平

・健康・体力向上

基本的な生活習慣

・創意工夫

自主・自律

・責任感

学びのめやす【就学前】

学びのめやす【就学後】

小学校児童指導要領【行動の記録】

[illegible]

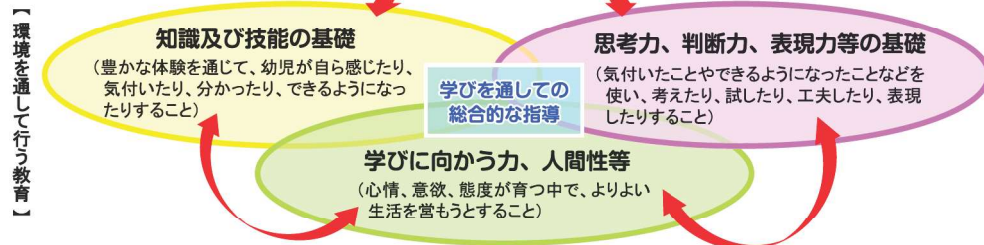
宗像市幼児教育振興プログラムの「育てたい幼児像」と3つの共通目標を示しています。

宗像市で統一している宗像市保育所児童保育要録・幼稚園幼児指導要録・認定こども園こども要録の6つの観点と評価項目を示しています。
表記の順序は3つの共通目標に合わせています。

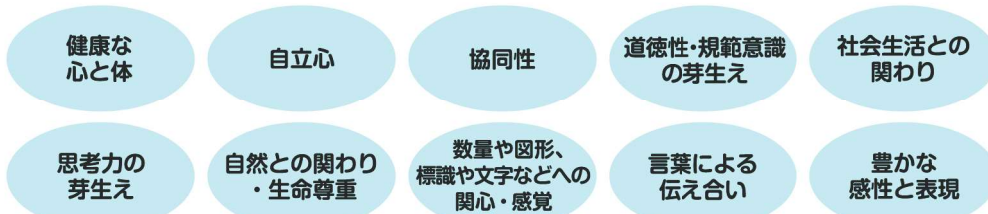
学びのめやす【就学前】には観点を示し、具体的な内容は、2～4ページに示しています。
【就学後】については、小学校児童指導要録の行動の記録やあゆみの生活の記録の具体的な評価の内容等、就学後に身に付けることを示しています。

小学校児童指導要録の行動の記録やあゆみの生活の記録の観点を示しています。上記の【就学後】の内容とつながっています。

資質・能力の三つの柱



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



- 保育者は、遊びの中で幼児が発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められる。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことについて十分留意する必要がある。幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じ、これらの姿がこたっていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意する必要がある。
- 5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要がある。

自分を大切にし、友だちを大切にする心を育てる

自分を大切に、友だちを大切にすることを育てるためには、自尊感情を高めることが大切です。高い自尊感情をもっていれば、何事に対しても積極的に入り組み、豊かな体験を積み重ねていく中で、さらに自信が付き、自分を受け入れ、他者をも受け入れていくことができるようになります。例えば、「自分は、勇気がないからできない」と考えている子どもには、「あなたのよさは、よく考えて丁寧に取り組むことだよ」などと励まし、自分のよさに気付かせ、自信を持たせることが必要です。また、役割を与え、やり遂げる体験を重ねる中で「自分は役に立っている」「認められている」と実感させることが大切です。

保育所・幼稚園・認定こども園では



小学校では

幼児教育での成果を受け、自他の尊重や自然や社会とのかかわりに関することなど、小学校の教育活動全体を通じて、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度などを養っていきます。

話を聞く力・言葉で伝える力・人やものとかかわる力を育てる

話を聞く力・言葉で伝える力・人やものとかかわる力を育てるには、発達段階に応じた豊かな体験活動や人とふれ合う機会・場が大切です。子どもたちは生活や遊びといった直接的・具体的な体験や人とかかわりを通して、いろいろなことに興味・関心をもち、直接かかわりながら、意欲的に追求しようとして、体験したことは、お互いに伝え合おうとし、コミュニケーション能力や良好な人間関係を形成できるようになります。

保育所・幼稚園・認定こども園では

あいさつ  ☐ 自分から挨拶する ☐ 名前を呼ばれたら「はい」と返事する ☐ 地域の身近な人とふれあう	つかう  ☐ のりを上手にぬる ☐ はさみを正しく使う ☐ クレヨンや鉛筆を正しく持つ	表現する  ☐ 描いたり、つくったりすることを楽しむ ☐ 歌ったり楽器を演奏したりすることを楽しむ
話を聞く  ☐ 絵本の読み聞かせを楽しむ ☐ 相手を見て聞く ☐ 最後まで聞く	伝える  ☐ 自分の思いを伝える ☐ 分かるように伝える ☐ 相手に応じた言葉を使う	かかわる  ☐ たくさんの友だちと夢中になって遊ぶ ☐ いろいろなものを使って遊ぶ

小学校では

幼児教育での成果を受け、様々な人やものとかかわりながら、学力の3つの要素である「基礎的な知識・技能」「課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」を培っていきます。

基本的な生活習慣を身に付け、丈夫な体を育てる

基本的な生活習慣を身に付けるには、大人の愛情に支えられ、安全な環境のもと、規則正しく生活することが大切です。例えば、姿勢よく椅子に座ることより、姿勢よく座ることの心地よさを感じさせることが大切です。「～しなさい」ではなく、「～できると気持ちいいね」というように、ほめて応援しながら、やり方を根気強く教え、愛情を持って見守りましょう。

また、丈夫な体を育てるには、正しい食習慣はもちろんのこと、特に幼児期においての外遊びが大切です。外遊びをすることで、様々な運動能力が向上するだけでなく、体を動かす楽しさや心地よさを実感し、運動好きになる傾向があります。

保育所・幼稚園・認定こども園では

手洗い・トイレ  ☐ 手洗い、うがいをする ☐ 排泄を自分でする	着脱  ☐ 自分で衣服の着脱や調整をする ☐ 自分で脱いだ衣服や靴を整える	姿勢  ☐ よい姿勢を保つ ☐ 椅子に正しく座る ☐ 気を付けた姿勢で立つ
外遊び  ☐ 全身を使って遊ぶ (鬼ごっこ・なわとび・さるわたり・のぼり棒・竹馬など) ☐ 自然にふれて遊ぶ ☐ 体を動かして遊ぶことを楽しむ	給食・弁当  ☐ はしを正しく持って使う ☐ 嫌いなものでも少しは食べる ☐ 時間内に楽しく食べる	物の管理  ☐ 必要な物を自分で用意する ☐ 使ったら元の場所に片付ける

小学校では

幼児教育での成果を受け、環境の変化に適応する力や身辺自立・基本的な生活習慣を定着させます。また、健康・体力をさらに向上させていきます。